

技術部からの海外職員研修への参加についての報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永田, 照三 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009259

技術部からの海外職員研修への参加についての報告

永田 照三

技術部 ものづくり・地域貢献支援部門

1. はじめに

本学では、全学的な教育・組織改革によるグローバル人材育成機能の強化を掲げている。具体的には、グローバルに活躍し経済社会の変革を担うイノベーション人材の育成機能の強化を目的に「アジアブリッジプログラム」を進め、アジアを中心とした留学生の受け入れ拡大をめざして海外からの学生募集と秋季入学体制、英語だけで学位取得が可能な修士課程カリキュラムの整備等、教育改革を積極的に進めている。

これらのことを進めるにあたっては、海外の事情にたけた人材を確保することはもとより、学内の人材についても、海外の協定校及び海外の留学生事情をある程度理解することは必須である。

このため、海外職員研修にて職員を積極的に海外の協定校等に派遣して、海外の大学運営及び教育体制について学び、外国の文化に肌で触れる機会を設けることによって、海外の事情を理解させ、本学の全学的な教育改革・組織改革によるグローバル人材育成機能の強化を図るものである。今回は、筆者が技術部として初めてその海外職員研修に参加し、県内企業が多く進出するタイに行き静岡大学グローバル改革推進機構スタッフとともに静岡県主催のタイ就職&留学フェア（11月22日）を支援したり、進歩的で交流に前向きなタイ随一の研究大学であり、農学部と部局間協定を結んでいるキングモンクット工科大学トンプリ校（King Mongkut's University of Technology Thonburi : KMUTT）にて海外職員研修（11月24日～28日）を行ったりしたので、その様子を報告する。

2. 事前日程について

月日	事項	内容	備考
9/2	面談	海外研修にかかる職員の意向確認について	
10/20	海外研修派遣者決定	メンバー、派遣先大学、おおよその時期の決定通知	職員課
10/27	第1回海外研修打合せ	海外研修についての情報、役割分担、質問表について確認	調達管理課久田氏による自主開催
	派遣先大学への申込書の送付	各自英語による Application form の作成・提出	国際交流課
10/29	国際交流センター ライアン先生との打合せ	タイ、派遣先大学(KMUTT)、アジアブリッジプログラム(ABP)と本研修との関係についての情報提供	
	研修日程決定	11/21～29 11/22: 留学フェア・タイ同窓会 11/24～28: キングモンクット工科大学トンプリ校(KMUTT)	国際交流課
10/31	派遣先大学への履歴書の送付	各自英語による Curriculum Vitae の作成・提出	国際交流課
11/5	第2回海外研修打合せ	英語による質問表の作成、確認、現状報告	
11/6	ホテル予約完了	21～24日(3泊分)を他の留学フェア参加者と同じホテルに予約	国際交流課
11/10	航空機予約完了	日程が急だったので国際交流課が手配	
11/11	派遣先大学からの招待状の送付	KMUTT から Invitation Letter、スケジュール、受け入れオフィス、担当者リストなどが送られてきた	国際交流課
	第3回海外研修打合せ	全体打合せの前の研修者による質問表などについての調整	
11/13	国際交流課・職員課との海外職員研修打合せ	研修目的、日程、事前作成物、出張費等についての事前打ち合わせ 各自研修内容の説明など	静岡キャンパス
	出国前の挨拶	学長・事務局長・総務部長への挨拶	
11/14	派遣先大学への質問表(英語版)の完成	研修者が各自作成して国際交流課へ提出 国際交流課が英文を確認・派遣先大学へ提出	
	留学フェア等についての連絡	11月22日の留学フェア・タイ同窓会のスケジュールや役割、資料の送付	グローバル改革推進機構
11/17	日程表の完成	調達管理課 久田氏が主に作成して職員課へ提出	
	KMUTT 訪問中の滞在施設決定	11月24日～28日は、Thonburi Sport Club and Mansion に決定	
研修前	Buddy への挨拶メールの送付	各自 KMUTT の担当 Buddy へ英語による挨拶メールの作成・送付	
11/19	第4回海外研修打合せ	出発前の最終確認	

先の表にあるように、海外研修派遣者決定（10月20日）から実際の海外研修（11月21日）まで1ヶ月しかなく非常に過密なスケジュールでの準備等になりとても大変だった。さらに、派遣先大学への英語の申込書や履歴書などは、1日程度の作成期間しかなく慣れない書類の英語での作成は大変だった。

海外職員研修メンバー（4名）による打合せは、調達管理課の久田氏の呼び掛けによる自主開催を含め海外職員研修前に4回行った。これにより派遣先大学への質問表の作成や情報共有などができ、準備期間が短かったため非常に有意義だった。

3. 海外研修日程・内容について

研修は、筆者を含め4名で右の表の通りの日程で参加した。KMUTTでの研修の前に静岡県主催のタイで開催された就職&留学フェアにグローバル改革推進機構スタッフとともに参加して、静岡大学への留学希望者への対応などの支援業務を行った。KMUTTでは、はじめ相互の大学の紹介やキャンパスツアーまでは4名で行動していたが、その後KMUTTから割り振られた担当 Buddy とともに各自担当オフィスでの研修となった。

月 日	曜日	内 容
11月21日	(金)	出国（中部国際空港）
11月22日	(土)	就職・留学フェア、タイ支部同窓会
11月23日	(日)	文化研修（世界遺産のアユタヤ遺跡）
11月24日	(月)	KMUTT・静大紹介、キャンパスツアー 各自担当オフィスでの研修（機械工学科）
11月25日	(火)	各自担当オフィスでの研修 （工学部の他の学科等）
11月26日	(水)	Dr. Annop (Assistant Professor)との打合せ Bangkhuntien キャンパスの視察
11月27日	(木)	Ratchaburi キャンパスの視察
11月28日	(金)	研修の発表（英語）
11月29日	(土)	帰国（羽田空港）

全体のキャンパスツアーでは、打合せ時に国際交流センター准教授のライアン優子先生から伺っていた通り、図書館がとても素晴らしく、様々な機能を有しているという空間になっていた、日本では珍しくドレスコードがあったり、巨大なチェスが行えるスペースがあったりして遊び心もあり、とても楽しい図書館でした（写真1）。

筆者は、工学部機械工学科の技術職員（Technician）のオフィスでの研修となり、そこには7名ほどの技術職員（Technician）が監視モニタなどのある部屋に居て、機械工学科の技術的な業務の窓口になって日常業務を行っていた。研修は、メインキャンパスである Bangmod Campus では、主に工学部機械工学科やその他の学科の実験設備等を視察したり、メインキャンパスから車で40分ほどの距離にある Bangkhuntien campus やメインキャンパスから車で3時間ほどの距離にある Ratchaburi Campus へも視察に行ったりするという内容だった。



写真1 KMUTT・静大紹介、
キャンパスツアーでの図書館の風景



写真2 KMUTT 工学部 機械工学科の研究室

工学部機械工学科では、主にエンジンに関する研究や実験設備が多く、そこでは主に日本のエンジンを改良していることを知ることができた（写真2）。

他学科の視察では、風力発電の実験設備や静岡大学にはない土木工学などの専攻もあり、その設備の珍しさやスケールの大きさが大変興味深かった（写真3）。

Bangkhuntien campus では、主に CES Solar Cells Testing Center やバイオ化学の研究室を視察し、様々なソーラーパネルの試験工程を体験することができた（写真4）。

Ratchaburi Campus では、Engineering Workshop の取り組みがとても興味深く、この取り組みは学生にボール盤、旋盤、フライス盤、溶接などの工作技術を一通り実習させ、その成果としてオリジナルの電気スタンドを設計・製作させコンテストで競わせるという取り組みで、学生の創造性と高い加工精度の素晴らしさに感銘を受けてとても参考になった（写真5）。

KMUTT 研修の最終日には、この研修での成果を発表することとなり各自英語で10分程度の発表資料を作成して、発表を行った。発表はこの研修の KMUTT での企画担当の国際交流スタッフ、各担当 Buddy や研修を通じてサポートしてくださった教員の方々などが参加して行われた。色々質問などもありましたが、九州大学で10年ほど勉強して学位まで取得された経験のある Dr. Annop Ruangwiset. (Assistant Professor) 先生が参加され、通訳をしてくださったおかげなどで全員無事に発表を終えることができた。



写真3 KMUTT 工学部 他学科の研究室や実験設備



写真4 Bangkhuntien campus
CES Solar Cells Testing Center



写真5 Ratchaburi Campus
Engineering Workshop

4. 事後日程について

帰国後は、拡大事務協議会で報告を行うこととなり、報告用の資料の作成と報告順や資料全体の確認のため海外職員研修メンバー（4名）による打合せを12月11日（木）に行った。報告は、12月16日（火）にTV会議システムにより拡大事務協議会で4名20分程度で行った。これも、準備期間が少なく大変でしたが KMUTT での研修の最後に発表を行っていたため、その資料を基にするなどして無事に報告を行うことができた。また、12月19日（金）には、職員課、国際交流課との今回の研修に関する意見交換も行われた。さらに、年度内には報告書としての資料を国際交流課へ提出する予定である。

5. おわりに

今回のこの海外職員研修では、準備期間もほとんどなく過密なスケジュールで大変でしたが、関係者や他のメンバーなどに助けられて留学フェアや KMUTT の研修など様々な体験ができて、とても良い経験になった。また、KMUTT の担当 Buddy やそのオフィスメンバー（写真6）は、語学力に乏しい私にとっても

気さくに接していただき、とても楽しい研修となった。さらに、この研修の KMUTT での企画担当の国際交流スタッフやサポートしてくださった KMUTT の Prof. Seki Tatsuji, PhD (Academic Advisor)、Dr. Pongphen Jitareerat (Assistant Professor)、Dr. Anop Ruangwiset. (Assistant Professor)などの多くの先生方などにも助けられ非常に良い経験をする事ができた。今後は、この経験を活かして学生への実習や技術部業務の幅を広げていきたいと思います。今回の KMUTT の研修では、良い設備や取り組みなどがたくさんあり非常によかったが、我々技術職員は学生と直接接する実験や実習などを主な業務としているので、その部分の取り組みなどを実際に視察できなかったのが残念だった。この研修が、大学 (KMUTT) の試験期間中だったため仕方がないことだが、今後技術部からの研修への参加の際には、それらの日程調整もある程度考慮に入れていただけるとより良いものになると思った。



写真6 KMUTT での記念写真

私を担当してくれた Buddy (左から2番目) の Mr. Pithayodom Kanbua とそのオフィスメンバーと本人 (右から3番目)

6. 今後の課題

今後も継続して技術部から参加できるようにする必要がある。また、その際には授業期間中等の日程についてもある程度考慮されるようにする必要もある。今回の海外職員研修への参加に際しては、技術部内で40歳代を選抜するという方法をとったが、全体で面談による選抜を行っているので今後は技術部で年代を選別しないで広く若い世代などの参加を呼び掛け、もう少し若い年代の人も早くからこのような研修に参加できるようにしたほうが見識を広げるといった観点からも良いはずである。

最後に、今回の研修では KMUTT から各自担当 Buddy を割り当てられて、各自担当オフィスでの手厚い研修を受けることができたので、その逆に海外の大学からの技術職員の研修を受け入れる場合などには、その受け入れ態勢の検討も今後は必要になると考えられる。

謝辞

今回技術部からこの海外職員研修に初めて参加させていただくことができましたのは、水野統括技術長の働きかけとそれを快く了承くださった前田事務局長や石崎総務部長などの関係者だと伺っておりますので、この場を借りて感謝申し上げます。

また、今回この海外職員研修に共に参加したメンバーの財務施設部調達管理課第二係 久田徳人 主任、学術情報部図書館情報課分館資料係 高橋理江 主任、工学部教務係 持川依梨佳 氏の3名の方々には、語学力に乏しい私としてはとても色々とお助けいただきましたので、深く感謝いたします。



写真7 KMUTT での記念写真

今回の海外職員研修参加メンバー左から
財務施設部調達管理課第二係 久田徳人 主任
学術情報部図書館情報課分館資料係 高橋理江 主任
筆者本人
工学部教務係 持川依梨佳 氏